

令和5年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立くすのき小学校

校長 芝田 孝人

1 学校経営方針

小学校学習指導要領では、新しい時代に必要な育成すべき資質・能力を「学びに向かう力・人間性等の涵養」「生きて働く知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」としている。

これからの時代を生きる子ども達が「人間としての強み」である「新しいことを発想する力」「自分の考えを相手に伝える表現力」「役割を考え自発的に行動する力」「コミュニケーション能力」などを身に付け、子ども達自らが、自分の人生を切り拓き、生き抜いていく力を培っていくことが求められている。

また、教育基本法に基づき、政府が5年ごとに策定する教育に関する総合計画である第4期教育振興基本計画(2023～2027)では、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられた。

ウェルビーイングには、「自己肯定感や自己実現などの獲得的要素」と、「人とのつながりや利他性などの協調的要素」の2つの側面があるとされている。これら2つを調和的・一体的に育んだものを「日本社会に根差したウェルビーイング」としている。

文部科学省の資料によると、ウェルビーイングとは、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福の概念であり、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域・社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることを含む包括的な概念である」とされている。

本校では、学習指導要領及び第4期教育振興基本計画の趣旨を踏まえ、知・徳・体バランスのとれた「生きる力」を育む教育活動を展開し、未来にはばたく子ども達の育成に努めていきたい。

○ 学校経営の視点**(1) 学力向上を図る教育の推進**

学習指導要領に示された、従来の「何を学ぶか」という学習内容の見直しと併せて「どのように学ぶか」という学習の過程や、その結果「何ができるようになるか」ということを見据えた「学びの質」の向上をめざした指導方法の工夫・改善を行う。その際、本校児童の実態を的確に捉え、課題解消に向けた取り組み内容や方法を全教職員で共有し成果を求めることで、子ども達一人ひとりの「生きる力」の育成を図る。

(2) 人権教育や心の教育の充実

互いを認め合い様々な人権問題を解決し、人権尊重の社会づくりを進めるために、「生きる力」の礎とも言うべき、生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心等、豊かな人間性の育成をめざし、心の教育の充実を図る。

(3) 健康・安全で楽しい学校づくり

子どもたちにとって、健康・安全で楽しい学校づくりをめざし、健やかな体の育成(体力向上・

食育の推進)や安全教育の計画的な遂行に努め、教育環境の充実を図る。また、「いじめ防止対策推進法」「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「子どもの貧困対策の推進に関する法律」などを受け、子どもたちが夢と希望を持ち、安心して生活することができる共生社会を実現すべく、様々な教育活動を展開していく。

(4) 家庭や地域との連携

「生きる力」の育成に向けては、家庭との連携を図り、子ども達の学習意欲が高まり、学習習慣が確立するように取り組むことが重要となる。また、学びに向かう生活基盤の確立は、子ども達にとって大きな力となる。子ども達一人ひとりの生活背景に配慮しながら、学校での学習活動に家庭からの協力を得て、共に子ども達を育てる視点で連携していく。また、学校がめざす方向やその過程をCS会議などを通じて地域社会と共有し、協力を得ながら取り組みの充実・進展を図る。

(5) 組織的な学校運営と人材の育成

社会のあり方が多様化する中、教職員がチーム体制で取り組みを進めることは必要不可欠である。教職員の良好な人間関係と連携を大切にし、学年集団や指導部・研修部などを基盤に、全校体制で取り組みを組織的に推進する。

また、教職員一人ひとりの個性を生かしながら、専門性や資質・能力の向上、サービスの厳正に努め、互いに学び合う姿勢を持ち続けることを大切にする。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	○学校教育目標「健康で よく考え 仲間とともに がんばりぬく子ども」の育成 ・子どもが生き生きと活動する安心安全な学校 ・保護者や地域とともに子どもを育む学校 ・教職員が互いに切磋琢磨し高め合う学校
★めざす子ども像	○何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、自分の思いを表現できる子 ・しっかりと考えることができる子 ・相手の気持ちを理解することができる子 ・全力で取り組み、やり切ることができる子
★めざす教師像	○子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ○主体的に問題を捉え、広い視野で解決できる教師 ○人間愛にあふれ、明るく前向きに職務を遂行できる教師

3 学校の現状（よさと課題）

（１）子どもたちの実態

本校の子ども達の強みは、元気で優しく、素直で、任せられたことは責任を持ってやり切る力があることである。逆に弱みは、リーダーシップを発揮したり、自分で考えて行動したり、自分の思いを表現したりする力が弱いところと感じている。

（２）子どもたちを取り巻く環境

- ①**教育環境**・・・教育環境には恵まれている。ハード面では、明るい教室、開放的な廊下、各教室には空調設備や大型テレビが配置され、個人用タブレットPCが配布されている。ソフト面においても、子ども達は教職員の指導のもと、校内の学習規律を大切にし、落ち着いた雰囲気の中、安心して日々の学習活動に取り組んでいる。
- ②**地域**・・・地域には学校に協力的な方が多い。子ども達の地域行事への参加や見守り活動など様々な方面から、本校の教育活動を支えていただいている。四條畷西中学校区のコミュニティスクールの運営協議委員の皆さんと年に数回の会議を開き、地域連携による子ども達の教育支援や育成について話し合い、情報を交換し活動を模索している。
- ③**組織（教職員、PTA、保護者）**・・・PTA組織は役員を中心に良くまとまり、役割を分担し協力して各活動に取り組んでいる。また、ここ数年のコロナ禍の状況においても、子ども達を楽しませようと様々な工夫を凝らして、保護者同士のつながりを深めている。そこに、教職員が加わり、子ども達を中心にすえた大人のつながりが形成されている。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
学校の教育力の充実		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、N R T、すくすくウォッチ	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
授業力の向上による全員 参加の授業 【学校教育自己診断】 （教職員アンケート 8） 学校全体の学力傾向や課 題について全教職員で共 有している。	肯定的評価 9 0 %	肯定的評価 9 4 %	・「四條畷市授業スタンダード」を踏まえ、授業 力の向上に努め、児童にとって「わかる・楽し い授業」を展開することができた。 ・ユニバーサルデザインの視点を大切にし、一 人も取り残さない全員参加の授業の実施をめざ し取り組むことができた。
生徒指導の方針の徹底 【学校教育自己診断】 （教職員アンケート 4） 様々な事象の対応や学 年・学校等の取り組み	肯定的評価 9 0 %	肯定的評価 8 8 %	・困っている児童に寄り添い、悩み事を共に考 え、解決できる教員集団をめざし教育活動を行 うことができた。

(様式2)

令和6年3月22日(金)までに提出

は、チーム体制で動くことが明確化されている。			・児童自らが自己の行動を振り返り、今後どうすれば回避できるかを考える、児童自らの成長を促す生徒指導を行うことを共有し実施した。 ・児童の自己肯定感の向上を図る肯定的評価を意識することができた。
心の教育の深化 【学校教育自己診断】 (教職員アンケート17) 人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、教職員間で共有している。 (教職員アンケート14) 支援教育について理解を深め、授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明に仕方、教材の工夫など)を行っている。	肯定的評価 90%	肯定的評価 83% 定的評価 94%	・全教員の道徳授業の授業力の向上や人権教育の充実を図るため、担当教員を中心に校内研修を行うなど、児童の心の教育の深化につなげていくことを意識して取り組んだ。 ・保護者と連携を踏まえた支援学級入り込み授業などを大切にし、「ともに学び、ともに育つ」集団づくりの推進を図ることができた。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
学校組織力の向上と運営体制の見直し		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
学校の組織力の向上 【学校教育自己診断】 （保護者アンケート4） 学校は、教育目標や指導方針を文書や通信などでわかりやすく伝えている。 （教職員アンケート5） 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全職員間で共有し、	教職員間の同僚性の向上 肯定的評価 90%	肯定的評価 93% 肯定的評価 88%	・学校通信などを活用して、学校の取組を保護者に知らせ、学校と保護者が同じ方向を向いて子ども達を見守ることができるよう努めた。 ・教職員にも、学校教育目標や経営方針などの周知を徹底し、学校運営の方向性の共有化を推進することに努めた。 ・本校の課題を視野に、校内組織体制の見直しを行い、教職員間の同僚性の向上に努めた。

(様式2)

令和6年3月22日(金)までに提出

取組みにあたっている。			
安心で安全な学びの場づくり 【学校教育自己診断】 (保護者アンケート14) 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいると思う。 (保護者アンケート17) 学校は、子どもの安全確保や事故防止に配慮している。	各種対応体制の共有と見直し 肯定的評価 90%	肯定的評価 88% 肯定的評価 93%	・いじめ虐待等対応支援体制構築事業を活用し事案の未然防止に努め、いじめ、虐待、不登校対応の体制の確立と状況の改善に努めた。 ・アレルギーや不審者対応、自然災害、交通安全などの保健安全指導関係の対応体制の共有と見直しを徹底することができた。

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
教職員の人材育成と人材活用 サービス管理		学校教育自己診断アンケート 児童・教職員アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
教職員の組織的・継続的な人材育成 【学校教育自己診断】 （教職員アンケート 15） 指導の内容や方法について、学年で話し合う機会を持っている。	日常的なOJTの推進 肯定的評価 90%	肯定的評価 100%	・教職経験年数に応じた職責を意識するよう呼び掛けたところ、進んで研修に参加する姿が見られ、校内での内容の共有も進んだ。 ・教職経験年数の少ない教員の育成について、学年はもちろんのこと学校全体で組織的に取り組むことができた。
【児童生徒教職員】 （教職員アンケート） 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。	研修の実施 同僚性の向上 市目標値 50%	本校最終値 55%	・不祥事の発生を予防し、未然防止を図るため、関係資料を活用した校内研修を実施するなど、注意喚起に努めた。 ・同僚性の向上を図り、風通しの良い職員集団をめざすことで事案の未然防止に努めた。大きな事案もなく、1年を終えることができた。

目標設定区分 4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援		学校教育自己診断アンケート 児童・教職員アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
地域とともにある学校づくりに係る組織の充実	学校運営協議会の成果と課題の整理 会議の充実	会議の回数 6 回 (すこやかネット含)	・四條畷西中学校区のコミュニティスクールの学校運営協議会の設置による地域コミュニティとの協働による学校運営に取り組み、充実を図ることができた。
家庭教育支援の充実	福祉部局との連携に努め、各家庭のサポート体制の充実	連携会議を月に 1 度程度持つことができた。	・家庭教育を支援する福祉部局とのケース会議等による適切な時期の情報共有を行い、連携の推進を視野に家庭支援の充実をめざしてきた。 月に一度程度の連携会議や電話による情報共有を密にし、各家庭のサポート体制の充実に努めた。

5 総合評価と次年度に向けて

○目標設定区分 1 【学校経営】学校の教育力の充実について

今年度より 3 ヶ年計画で実施している校内研修「研究授業」の取組みが充実してきた。担当の教員を中心に全員が同じ方向を向いて積極的に研修に取り組む姿勢に、今年度の成果を感じている。

また、授業や行事はもちろん、学校の教育活動の全てにおいて生徒指導の発達支持的生徒指導の視点をもって取り組むことが浸透してきている。次年度も継続して取組み、子ども達の成長に繋げていきたい。

道徳の授業の充実や支援学級担任の通常学級への入り込み授業の実施など、学校教育活動全体を通じて取り組んだ心の教育にも手ごたえを感じている。まだまだ、これから積み重ねていく必要があるが、確実に子ども達に思いが伝わっていることを嬉しく感じている。

○目標設定区分 2 【学校組織の運営】学校組織力の向上と運営体制の見直しについて

今年度は「学校の教育課程」や「児童の学力向上」について、職員一人一人の意見を反映していく丁寧な話し合いの場を設置し、全教職員が、学校運営に主体的に関わっていくことができる体制づくりに取り組んだ。新設の体制は、全教職員でベクトルをそろえ学校運営に取り組める体制ではあったが、既存の分掌との重複もあり、年度末の反省を踏まえ、更に新しい体制づくりへとつながっていった。その内容(質)を落とすことなく業務改善を行うことができた。

○目標設定区分3【人の管理・育成】教職員の人材育成と人材活用・服務管理について

人事配置や組織体制を工夫することで、教職員が自ら自己の経験に応じた職責を果たし、活躍することができる場を設定し、スムーズな風通しの良い学校運営体制の構築に取り組んだ。日常的なOJTや同僚性を活かした教職員の育成が図れることを期待し、専科教員の配置を意図的に行った。

結果として、担任が児童と向き合う時間や教材研究にかける時間を確保することができ、学校として、少しではあるが、時間を有効に活用することができていたと感じている。

○目標設定区分4【地域連携と渉外】地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援について

学校運営に欠かせない保護者や地域との連携を大切にしていくことの重要性を教職員と共有し、学校運営に取り組んできた。学校が行うこと、保護者が行うこと、地域が行うこと、外部組織が行うことを見極めながら、それぞれが少しずつ丁寧に関わることで、その見守りからはみ出す児童がいないようにすることなどが、管理職に求められている。次年度も引き続き、任意加入となったPTA組織や四條畷西中学校区学校運営協議会、福祉部局が設置している各施設などとも連携し、各家庭の支援に努めていきたい。